平成25年度新島村教育委員会の権限に属する事務の管理

及び執行状況の点検及び評価（平成24年度分）報告書

平成25年9月

東京都新島村教育委員会

新島村教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針

(1)　点検及び評価の目的

　　新島村教育委員会は、毎年、新島村教育委員会の基本方針に基づく教育施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、成果や課題の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図る。また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものとする。

(2)　点検及び評価の対象

　　平成23年度新島村教育委員会の基本方針に基づく教育施策

(3）点検及び評価の実施方法

　　点検及び評価は、前年度の施策・事業の内容と成果を総括するとともに、課題について検証し、今後の取組の方向性を検討するものとし、毎年1回実施する。

２　新島村教育委員会の活動概要

　　新島村教育委員会は、新島村長が新島村議会の同意を得て任命した5名の委員により組織される合議制の執行機関であり、新島村が処理する教育に関する事務を管理し、執行している。教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督の下に、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどっている。

　　平成24年においては、定例会については、教育委員会会議規則の規定どおり毎月1回開催しており、合計12回の開催となり、議案15件、報告事項３件について審議等を行った。臨時会については、開催しなかった。

　　また、入学式、卒業式、四島体育大会、地区音楽会、学芸会、運動会、地区公開講座、公開授業等の各種行事の参観や学校長との意見交換のための学校訪問など実施した。

　　学校教育においては、昭和59年から続いている保・小・中・高で組織する「新島村連携型一貫教育研究協議会」を推進し、会名の変遷とともに、組織強化が図られ、新島村独自の連携型教育として成果を挙げてきている。

　　学校環境整備については、すべての学校の校庭の芝生化工事を完了している。

学校施設の維持管理については、新島中学校の校舎を都立新島高等学校南側に移転・新築することが決定しており、平成24年度においては、基本設計が実施された。今後は、25年度実施設計、26年度から2ヵ年度で建設工事を実施する計画となっている。なお、現行校舎については、立替えることを前提に管内学校施設で唯一耐震補強を実施していなかったが、この事業完成により既存施設の耐震化は全て完了することとなる。

このほか、一昨年、新島中学校及び式根島中学校の普通教室で空調設備の設置工事が完了している。

３　新島村教育委員会の基本方針に基づく平成24年度教育施策の自己評価

　平成24年度　新島村教育委員会の教育目標

|  |
| --- |
| 新島村教育委員会は、人権尊重の精神を基調とし、学校教育と社会教育との緊密な連携のもとに、健やかな体・豊かな心と知性をもち、モヤイの精神をもって郷土を愛し、たくましく生きる村民の育成を期して、教育行政を推進する。 |

「新島村教育委員会の基本方針」

新島村教育委員会は「教育目標」を達成するため、以下の基本方針に基づき、教育施策を推進する。

|  |
| --- |
| 【基本方針１　人権尊重の教育の推進】 |
| 日本国憲法及び教育基本法の精神に基づき、学校教育活動と社会教育活動全体を通して、あらゆる偏見や差別をなくすため、人権尊重の教育を推進する。 |

達成度

Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：達成していない　Ｄ：全く達成していない

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目（１） | 学校の教育活動全体を通じて、あらゆる偏見や差別をなくし、全児童・生徒が充実した学校生活ができる教育を推進する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | ふれあい月間の縦割り班活動に、グループエンカウンターを遊びに取り入れた。一人一人の児童が尊重され、協力する喜びについて体験的に学ばせることができた。児童相互の関係をさらに深め、児童の中での望ましいリーダーシップを発揮させられる場面をより多く設定することが必要である。 | 新小 |
| 内　容成　果課　題 | 年度当初、教職員を対象に人権教育プログラムを活用した校研修を実施。人権についての基本的な考え方を学ぶと共に、全教職員が共通の人権感覚を持って、教育活動にあたることができた。毎年度当初に確実に実施していくことが必要。 | 式小新中　Ｂ式中 |
| 内　容成　果課　題 | 内容　朝礼・学活・道徳において、いじめの防止に向けて人権に関わる講話を実施した。また、学期毎の「ふれあい週間」での「アンケート」を基にした個人面談を実施した。人権侵害に関わるような深刻な問題は報告されなかった。ネット上などでの書き込み等のトラブル防止のため、ネット上での人権侵害についての認識を深めさせる教育が必要である。 |
| 内　容成　果課　題 | ふれあい月間を利用して、年三回の教育相談週間を実施した。生徒全員とスクールカウンセラーの面接とともに、生徒の希望する教員との相談を実施した。また、スクールカウンセラーによるグループワークを2回行った。生徒同士のよりよい人間関係作りに活かした。生徒が、自分も他人も大切にする表現方法を身に付けていく指導も必要である。 |
| 項　目（２） | 子供たちに、社会の一員として規範意識や公共心、思いやりのある心を育むため、「道徳授業地区公開講座」の実施により道徳教育のいっそうの充実を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 村内の国際協力活動経験者を講師に招き、保護者向け講演会を実施した。保護者は国際ボランティア活動等の社会貢献活動を身近に感じることができた。児童にも、社会貢献について考える気合いを設定したい。 | 新小式小新中式中 |
| 内　容成　果課　題 | 文化庁主催の「次代を担う文化体験事業」（演劇）と道徳授業地区公開講座をリンクさせて実施。児童は演劇に参加したり、保護者、地域の方とともに演劇鑑賞したりしてテーマについて共有することができた。毎年、保護者や地域の方の参加が少ないので工夫が必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 法律事務所から弁護士の講師を招き講演会を実施した。生徒は、人権尊重、法律遵守の精神について学び、興味関心を深めることができた。保護者、家庭の参加を一層呼びかけ、参加者を増やしたい。 |
| 内　容成　果課　題 | 道徳授業地区公開講座で、郷土を愛する心やその内容を学習した。全校で自分たちのふるさとの良さを大切にしていく心情を培った。全校で取り組む道徳指導の一層の充実。 |
| 項　目（３） | 障害のある人に対する理解を深めるとともに、人種、民族、性別その他すべての分野において、児童・生徒の人権がそこなわれることのないように配慮する。 |  |
| 内　容成　果課　題 | 特別支援学級児童を含めた縦割り班活動を実施し、遊びや清掃活動での交流を図った。障害の有無に関わりなく、協力し尊重し合うことの大切さを学ばせることができた。日常的な活動を人権教育として位置づけを明確にしていくことが必要である。 | 新小 |
| 内　容成　果課　題 | 1年から３年までの縦割り班活動を実施し、奉仕活動や遊びや掃除での交流を実施。年齢や性別に関係なく、みんなで協力して、仲良くすることの大切さを学んだ。様々な機会を活用して、人種、民族その他すべての分野において、より一層人権感覚を育てていくことが必要。 | 式小 |
| 内　容成　果課　題 | 道徳と関連させながら各教科で人権侵害について考えを深めさせている。全職員が道徳の授業を担当し、道徳の授業研究が図られた。道徳授業の充実により、生徒は道徳授業に積極的に参加している。より広い人権問題について考えさせたい。 | 新中式中　Ｂ |
| 内　容成　果課　題 | 道徳授業を中心としながら、生活指導においても、生徒の人権に配慮する指導を行った。日常の指導を含めて、人権感覚を育てることができた。教科指導においても、人種、民族、性別その他すべての分野において、一層人権感覚を育てていく実践が必要である。 |
| 項　目（４） | 社会教育においては、すべての村民がともに支え合い、平等で一人一人が尊重される地域社会の実現に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 地域の協力を得て高齢者交流会や奉仕活動を小・中学校合同で行った。高齢者交流会では老人クラブの方々と連携しゲートボールで交流するとともに、浜清掃では小・中学生を含め多くの地域の方々と協力することができた。学校や児童に期待される役割を果たすための地域や保護者の意見をさらに広く取り入れていくことが課題。 | 式小・式中 |
| 内　容成　果課　題 | 道徳授業地区公開講座を実施した。講演会に参加した保護者・教員は、道徳教育についての新たな示唆を受けることができた。休日に実施し、保護者や地域の方が参加しやすい環境づくりに努めているが、参加者がなかなか増えない。行政をはじめ、様々な機関との連携を図り、「道徳教育」について、おとなの関心を高めていく必要がある。 | 全校 |
| 内　容成　果課　題 | 「あいさつ運動」、「登校中のごみ拾い（ノーダストデー）や「前浜清掃」への参加を通して、それぞれが村民の一員であることを考えさせている。中学生の活動を村民に認めてもらえることで、新島村民としての自信と誇りを持てるようになってきた。子どもは村の宝であるという意識は大切だが、過保護に扱われる傾向がある。 | 新中教育教育教育　Ａ |
| 内　容成　果課　題 | 新島村民運動会、式根島大運動会の実施。新島地区については約1,300人、式根島地区は約400名参加。町会の親睦の場となっている。各町会の住民構成に格差が生じており、町会対抗の競技に制約が必要になってきた。 |
| 内　容成　果課　題 | 1月3日成人式の実施新島地区25名、式根島地区7名の成人者が出席荒天の続く時季のため、島外成人者、恩師、講師の来島に支障がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 新島村文化協会への助成。富洋会12名、自然愛好会45名、二三芳姫会８名、郷土料理研究会23名、コーラス風15名の合計103名の会員がそれぞれの分野で活躍している。また、各種行事への参加、文化祭や住民を対象とした催しを開催し、住民の憩いの場も提供している。文化協会としての組織の強化。 |

|  |
| --- |
| 【基本方針２　健全育成の推進】 |
| 　児童・生徒・青少年が、人間性豊かな社会の形成者として健やかに成長できるよう、学校・家庭・地域社会等の連携のもとに、「心とからだの健康づくり」を推進する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目（１） | 基本的な生活習慣の育成、社会性及び道徳性の育成、健康の保持・増進を視点として、児童・生徒の健全育成に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 小学校全学年道徳授業の公開、保護者との意見交換会を実施。児童や保護者に、社会性や道徳性について考える良い機会となった。保護者の社会性や道徳性について啓蒙する必要がある。 | 　新・式教育全校式小新中式中 |
| 内　容成　果課　題 | 夏休みを利用し、午前6時30分からラジオ体操の実施。新島地区、式根島地区とも７月21日から7月31日。新島地区延べ783名、式根島地区延べ359名参加。保護者の意識低下による参加者の減少。 |
| 内　容成　果課　題 | 遠泳大会・運動会・ロードレース大会の実施。遠泳大会、運動会やロードレース大会を目標に事前練習に励み、健康の保持増進・体力の向上を図ることが出来た。保護者や地域の協力者（ボランティア）の確保と協力内容の充実。 |
| 内　容成　果課　題 | 毎月初めの全校朝礼で、生活目標や保健・給食目標を示すと共に各学年では発達段階に応じた目標をたて、周知と指導の徹底を図った。また、教員の生活指導打ち合せを月2回行い、各学年の取り組みや成果を報告しあった。各学年の実態について共通理解をもつことができ、全校体制で指導にあたることができた。継続指導が必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 「あいさつ運動」を、一貫教育の健全育成の中心にすえ、登校時、校門前で生徒自ら、年間を通じて「あいさつ」の習慣を奨励した。普段から村内で大きな声で「あいさつ」する姿が多くなった。一貫教育の成果として重要である。まだ、十分とは言えないので継続指導する必要がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 各月の目標に上記の項目（「基本的な生活習慣の育成、社会性及び道徳性の育成、健康の保持・増進を視点として、児童・生徒の健全育成に努める。」）を取り入れるとともに、家庭へも「早寝早起き朝ご飯運動」の協力を呼び掛け、生活習慣の改善を図った。各学年の発達段階に応じて確実に育成が図られている。指導の継続と保護者の一層の協力が課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 食育全体計画に基づき、毎月食育についての指導を全学年で実施した。給食の食べ残しが減るなど、児童の食に関する意識が高まった。各学年の発達段階に応じた指導を家庭と協力して実施する必要がある。 |
| 項　目（２） | 保育園・小学校・中学校・高等学校における保育士・教員相互の共通理解を図り、一貫した指導体制の確立に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 年間2、3回、保育園と小学校低学年との交流を実施。小1プロブレムの解消が図られ、円滑な入学が可能になった。交流行事・交流授業の工夫改善。 | 新小新中　Ｂ全校式小・式中 |
| 内　容成　果課　題 | 連携型一貫教育の推進のため「教科部会」「健全育成部会」「あり方生き方部会」の３部会を設け、保育園から高校までの教員が各部会に所属して、お互いの教育活動についての情報交換や授業研究を行った。各「教科部会」で、授業研究を熱心に実施し、各校の教員が、他校種のカリキュラムを意識して教育課程を編成することが出来るようになった。各校種の教育課程を見直し、重複や無駄を無くし、効率のよい連携型一貫教育を実施する必要がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 「連携型一貫教育研究協議会」の歴史と意義について全ての教職員が共通認識を行い、全体研究テーマを掲げたうえで組織的に研究実践や交流を進めることができた。保育園と小学校、小学校と中学校、中学校と高校の各接続をスムーズに行うきっかけになった。全ての教職員が当事者意識・目的意識をもって取り組むようになることで、より一層子ども達の成長に寄与する活動となる。 |
| 内　容成　果課　題 | 式根島地区で保育園・小学校・中学校の連携を推進。保育士・教職員の交流を深め、合同行事についての連携を深める取組みを実施できた。連携型一貫教育の充実を図るため、保育園・小学校・中学校の各行事等へさらに参加協力する体制作り。 |
| 項　目（３） | 家庭のしつけ、いじめ、学校不適応、進路の悩み等の多様な相談に対して、迅速・的確に対応できるよう、教育相談の施設や機能の整備・充実に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 登校が定着していない児童に対して、担任、カウンセラー、支援員等が連携して対応した。家庭との連携が進み、登校の定着に向けて着実な進展があった。児童の内面理解を進める教育相談の方法を学校全体で確立していくことが必要である。 | 新小 式小　　式中　Ｂ新中教育全校 |
| 内　容成　果課　題 | 児童の悩み等を幅広く拾うため、相談箱を設置。中学校との連携事業としてスクールカウンセラーの派遣を実施。児童との面談を実施することで、次年度からのカウンセラー配置にむけての準備を行うことができた。相談室の整備や教育相談週間の設定、スクールカウンセラーの活用をより充実したものにしていくことが必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 学校に配置されているスクールカウンセラーと協力しながら教育相談の充実を図った。生徒、保護者の多様な相談に、可能な限り対応できた。離島勤務のため、日程等の変更及び勤務できる時間の制限があるため、迅速な対応がむずかしい面が課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 担任、スクールカウンセラー、養護教諭との面談など、悩みを持つ生徒に対し、迅速に教育相談を実施している。小学校も中学校も同じスクールカウンセラーが対応しているので、教育相談の対応に一貫性があり、スムーズである。カウンセラーの配置日数が限らているなか、相談件数は多く、面談時間の調整に苦労している。 |
| 内　容成　果課　題 | スクールカウンセラーの配置及び児童相談所、民生児童委員との連携や新島村要保護児童対策地域協議会と協働して、児童虐待等の早期発見・対応を行っている。教育相談や訪問相談などスクールカウンセラーや巡回相談を有効に活用し、児童・生徒や保護者の悩みに対応できた。また、関係諸機関と連携しながら情報を共有しているため、対応がスムーズになった。スクールカウンセラーは年間35日、巡回相談は年1回と限られた回数のため、ケース毎の迅速な対応ができない。 |
| 項　目（４） | 児童・生徒・青少年の心身の健康づくりに努めるとともに、性にかかわる指導や事故防止の指導の充実を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 朝の登校指導、交通安全指導、セーフティー教室を警察と連携して実施。児童の交通安全に対する意識や自分の身は自分で守るという意識が高まった。さらに警察との連携を深めて、訓練などを計画・実施することが必要。 | ？？式小・式中　Ｂ新中教育 |
| 内　容成　果課　題 | PTAと協力して自転車教室を計画。第3学年においては「地域安全マップ」を作成し、全校児童への紹介と交通安全の呼びかけを行った。児童及び保護者の交通事故防止に関する意識が高まった。交通法規の理解と順法意識をさらに高め、大人が良い手本となる必要がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 年間計画に基づいて性に関わる指導を児童・生徒の実態に合わせて行った。各学年の発達段階に応じた知識の習得ができた。村の連携型一貫教育方針を見据えた、保育園・小学校・中学校・高校との指導内容の系統性の検討。 |
| 内　容成　果課　題 | 新中タイムでの時間走などを通して、体力増強、健康増進に努めている。また、保健体育の授業では、性について学年段階に応じた指導を行っている。新中タイムでの時間走を継続的に実施することによって、走ることへの抵抗感がなくなってきた。中学3年生の卒業前に、養護教諭から性に関わる保健講話を実施できた。男女共に体力向上には、継続的な指導が必要である。特に、全国平均より劣る男子生徒の体力向上が望まれる。 |
| 内　容成　果課　題 | 駅伝・ロードレース大会の実施。参加人員：駅伝32チーム224名、ロードレース151名。駅伝・ロードレースに参加するため1ヶ月以上も練習を積み重ねており、体力向上に繋がっている。参加者が多く、交通規制等のボランティアの確保が難しくなってきている。 |
| 項　目（５） | あらゆる生活環境の中で、何時でもどこでも意識せずに情報通信システムが利用できる時代を迎え、児童・生徒の規範意識や危機対応能力の育成のため、セーフティー教室をはじめとする非行防止・犯罪被害防止教育の充実を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | インターネットを通じて他地域との合同事業を実施した。インターネット活用の便利さと健全な活用のためのモラルについて学ばせることができた。個人的機器の利用についての指導について検討する必要がある。 | 新小式中　Ｂ式小・式中新中 |
| 内　容成　果課　題 | セーフティ教室では非行防止・犯罪被害防止について学び、ネット利用者等の危険性についても別の機会に講師を呼び学習した。生徒一人一人に対応した指導が行えた。ハイテク、特に変化の激しいネット環境に対応していくことが課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 小中連携の中で、小・中学校でのセーフティー教室にお互いが参加できるよう周知して参加を促した。非行防止や犯罪防止の危機意識を持つことができた。児童・生徒の実態に即した内容について検討が必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 中学校、高等学校合同セーフティー教室を実施し、警視庁の講師を招いて、非行防止・犯罪被害防止について指導している。夏季長期休業前に、薬物乱用やネット犯罪など使いかた次第で、危険なものにもなるということを指導でき、非行防止に役立った。急速なLINE（ライン）等の普及により、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）上のトラブルが増加しつつある。適正な使用に関する、生徒、保護者等への啓発が必要である。  |
| 項　目（６） | 地域とかかわる社会体験、自然体験、道徳教育を通して、モヤイの精神で助け合い、進んで奉仕する思いやりのある心を育てる教育を推進する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 保育園・小学校・中学校・高等学校合同の浜清掃、中学校ではお年寄りのお墓掃除の手伝いなど、地域との関わりを積極的に行っている。島の環境について考えるとともに、地域を愛する気持ちも育ちつつある。児童・生徒だけの活動ではなく、地域住民や保護者の参加を促したい。また、清掃後のゴミ処理の対応。 | ？式小　Ａ式中新中 |
| 内　容成　果課　題 | 地域の協力を得て高齢者交流会や奉仕活動を中学校と合同で実施。また、総合的な学習の時間や各教科において、地域の方をゲストティーチャーとして招いて授業を実施。高齢者交流会では老人クラブの方々と連携しゲートボールで交流するとともに、浜清掃では中学生を含めた多くの地域の方々と協力することができた。ゲストティーチャー招致の年間指導計画への位置付けが必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 中学校校庭や地域の環境整備、小・中合同の浜清掃などを、多くの地域住民や保護者の参加を得て行った。地域の環境について考えると共に、地域を愛する気持ちの育成が図れた。取組の継続発展とさらなる地域との連携が課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 職場訪問や5日間の職場体験実習を通して、モヤイの精神で助け合い、進んで奉仕する思いやりのある心を育てる教育を推進する。職場体験を通して村の一員である自覚と自信がついた。職場体験に協力していただける職場の数、職種に限りがある。 |

【基本方針３　学校教育の充実】

|  |
| --- |
| 　児童・生徒が、生涯を通じて社会の変化に主体的に対応して成長できるよう、基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成を重視して、一人一人の個性を生かす教育の充実を図るとともに、国際社会に貢献できる人材を育成する教育を推進する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目（１） | 基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせるとともに、体験的な活動を通じて、自ら学ぶ意欲や能力を培う教育を推進する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 学習朝会や読書朝会を10分設定し、基礎的・基本的な内容の充実を図った。集中して取り組むことができた。また、全学年実施のため上学年児童が良き手本となろうする意識が芽生えたとともに、担当学年を超えた全校体制で指導にあたることができた。家庭学習につなげることや読書活動の工夫が必要。 | 式小新小新小　Ｂ式中新中新小 |
| 内　容成　果課　題 | 算数の授業で、1年から4年はチーム・ティーチング（TT）を組み、5・6年は少人数に分けた授業を実施した。つまずきを把握して確実に理解させることができた。TT及び少人数の指導法の更なる研究並びに人材の確保。 |
| 内　容成　果課　題 | 東京都や全国の学力調査を分析し、授業力向上に向けた研究会を行っている。児童・生徒の実態調査を通じて把握し、取り組むことで学習への意欲が高まってきている。小学校から家庭学習の習慣を身に付ける必要があるので、今後も保護者会や学校からの通信を利用して保護者への啓発を行っていく。 |
| 内　容成　果課　題 | 昼休み後の15分間を基礎学習の時間とし、全教員で個別指導に当たった。また、「総合的な学習の時間」を中心に体験的な活動を行った。生徒がそれぞれの学習状況に応じ、補充的問題や発展的問題に自分から取り組む姿勢が身についてきた。自ら家庭学習に取組めるよう支援することが課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 基礎・基本の定着のために、中学校では全生徒に家庭学習ノートの取組を行っている。また、放課後の質問教室、長期休業中には補充学習教室を実施している。総合的な学習の時間においては、体験的な活動（正月飾り等）を重視し、取組んでいる。家庭学習ノートの取組みで、家庭学習の時間が少しずつではあるが増加している。また、多くの体験的な活動から、積極的に学習に取組む村の伝統に興味を持つ生徒が増えてきた。家庭での復習など、宿題以外で勉強する生徒が少ないなど、質の高い家庭学習を進める意欲がある子どもとない子が２分化されつつある。 |
| 内　容成　果課　題 | 小学校３年生が博物館の「子供学芸員」として解説を実施した。自ら調べて、解説する内容を決め、相手を意識して表現することができた。夏季休業期間中の自主研究を含めて調べる期間を十分にとる必要がある。 |
| 項　目（２） | 島しょ小規模校の特色や地域の特性を生かした指導計画・指導方法の改善を図るとともに、一人一人の個性・能力に応じた指導を徹底する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 小学校では１・2年生が農園活動としてサツマイモの栽培を実施した。収穫したサツマイモを使って郷土料理実習を行い、地域の食文化にふれることができた。積極的なゲストティーチャーの活用。 | 新小新小式小新中式中　 |
| 内　容成　果課　題 | 小学校の学芸会にあわせて島節を練習し発表した。また、島節の歌詞とリズムを生かした踊りを創作して踊った。運動会では、高学年の組体操に、島で歌い継がれてきた「島節」を取り入れて創作した「BUSHI舞」を組み入れて発表することで、新島の文化の継承と、新しい文化の創造・発展につなげることが出来た。島文化の継承者をゲストティーチャーとしてリストアップし、人材を確保する。 |
| 内　容成　果課　題 | 小・中学校の教員に兼務発令をしてもらい、小学校３～６年の音楽・図工・家庭科について中学校の教員が授業して評価まで実施。児童一人一人に対応した授業を展開することができた。授業の様子や、授業の持ち物等の連絡体制を充実することが必要。 |
| 内　容成　果課　題 | 各教科ではＩＣＴ等を活用するなどし、分かりやすい授業に取組んでいる。数学科では、クラスを2分割し、生徒の習熟度に合わせて個別の指導の対応をとっている。また、長期休業中に、個別の補習授業を実施している。家庭学習の時間が増加するなど、意欲的に学習する生徒が増えてきた。また、漢検、英検等の試験を休日、学校で実施している。個別指導を手厚くしても、高等学校進学まで選抜がないため、生徒自身の意欲の向上が見られない例がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 校内研修会で一人１回の以上の研究授業を行うとともに、お互いの授業を見学しあい、その後、指導方法の改善の研修会を実施した。毎時間の授業の狙いの明確化と振り返りシートの活用が図れ、学習内容の工夫・改善がなされた。学ぶ意欲を高める指導の工夫・改善が課題。 |
| 項　目（３） | 心身に障害のある児童・生徒が、それぞれの能力・適性等を最大限に伸長できるよう教育環境を整備するとともに、特別支援教育を推進し、一人一人の教育のニーズを把握した支援を図る。 | 達成度 |
|  |
| 内　容成　果課　題 | 特別支援学級の円滑な運営と、校内の通常学級との交流授業の工夫。特別支援教育校内委員会の活用。特別支援教育校内委員会が中心になって、通常学級における特別支援教育（固定学級及び通級指導学級）の校内支援体制を構築できた。固定学級や通級指導学級に対する地域・保護者の正しい理解を得ること。また、特別支援学級が固定・通級の２学級体制となったことで、教材教具の購入や開発のために必要な予算が増大することとなるため、その予算措置。 | 新小新中新小式小 　B式中達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 特別支援教育コーディネーターを中心に、個別支援を視野に入れた取組みを実施している。中学校では、校内特別支援教育委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心に、各学年の支援が必要な生徒について、校内で研修を行い、対応を図っている。中学において、平成26年度に通級学級の開設、平成27年度に固定学級の開設を視野に入れて、準備を進めている。また、中学校の校舎建設予定に伴い、特別支援教室の設置等について、検討を進める必要がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 保育園、小・中・高校の各学校、子ども家庭支援センター、診療所医師による特別支援教育推進協議会を毎学期開催し、児童・生徒の現状と対策について検討。地域の子どもたちの情報をもとに、特別支援学級の設置及び特別支援教育の推進に寄与している。学校施設の充実及び人材の確保。 |
| 内　容成　果課　題 | 一人一人の学習に関しての指導法を工夫するとともに、情報交換を行った。きめ細かい学習指導を行えるよう、特別支援指導計画を作成した。個別指導計画による成果と課題の検証と向上が課題。 |
| 内　容成　果課　題 | 各教科で、きめ細かい学習指導を工夫するとともに、全生徒の個別指導計画を作成した。授業中の生徒の心の動きの把握と、生徒への働きかけの工夫・改善がされた。個別指導計画の検証の継続。 |
| 項　目（４） | 児童・生徒が自己理解を深め、主体的に進路を選択する能力と望ましい勤労観・職業観を身につけることができるよう、進路指導の改善・充実に努める。 |
| 内　容成　果課　題　 | 社会科見学等において各施設で働く方々の様子を知る。各施設で働く方々の様子を見たり聞いたりすることで、一人一人の児童が働くことの大切さや難しさを知ることが出来た。今後実際の勤労体験を取り入れることで、自分の進路について、より実感を持って考えさせていきたい。　　　　　　 |  　新小？式小新中式中　 |
| 内　容成　果課　題　 | 「夢を拓く」を活用した指導を継続して実施。キャリア指導全体計画を作成した。全体計画の検討及び年間指導計画の見直しが必要。　　　　　　　　 |
| 内　容成　果課　題 | 中学１年生は職業調べ、２年生は5日間の職業体験、３年生は上級学校訪問など３年計画でキャリア教育を推進している。島内での職場体験では、勤労観や職業観を身に付けるだけでなく、島の産業、環境、観光などの課題に目を向ける有意義なものになっている。顔見知りの中での職場体験は、甘えが出てしまう。また、職場体験先が限られているので、将来的には、内地においての職場体験などの検討も進める。 |
| 内　容成　果課　題 | 職業人に話を聞く会、職場訪問、職場体験と系統的に指導した。身近な大人が真剣に働いている姿に直接触れることで、生徒たちはより深く働くことについて主体的に考えるようになった。勤労観や職業観を身につけるだけでなく、郷土の産業、環境をより深く学ぶ取組にしていくことが課題。 |
| 項　目（５） | 新島・式根島中学校と都立新島高等学校との「連携型中高一貫教育」を推進し､さらに小学校も合わせた「新島村連携型一貫教育研究協議会」をとおして、新島村独自の連続性・一貫性のある教育を推進する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 小・中・高校の教員が、年間の計画に沿って授業を行い、また、行事などでは、児童・生徒間の交流（奉仕活動、村民運動会など）も盛んに行っている。教職員が一貫教育を通して連携しあうことで、いつでも、どこでも、誰にでも声をかけられるなどの学校間を越えた対応が図られている。小学校と中学校との連携計画の作成と、教員の異動に左右されない、連携スタイルの確立が必要。 | 式小 |
| 内　容　　　　　　　　　　　　成　果課　題 | 保小中高において、事前に打合せをし、年間の行動計画、研修計画を立案、実施している。行事などでは、児童生徒間の交流（浜清掃、村民運動会、合同授業など）も盛んに行っている。また、健全育成の場でも、教職員が共通理解を図り、移管教育を通して連携し合うことで、児童・生徒の手厚い個別指導、一貫性のある指導に役立っている。教職員により問題意識に差があるため、より研修を深める必要がある。 | 新中 |
| 内　容成　果課　題 | 数学・英語などで高校の教員にＴ２として授業に入ってもらうとともに、小学校の教員と連携し、中学の教員がＴ２として協力授業を行った。兼務発令を受け、音楽・図工・家庭において中学校の教員が連携授業を実施し、指導の連続性が推進できた。村民にも見える形で、さらに質の高い教育を実践していくことが課題。 | 式中 Ｂ |
| 項　目（６） | 時代の要求する多様な教育問題に適切に対応できるよう、教職員研修体系を整備・充実し、教職員の資質・能力の向上、学校内の指導体制の確立を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 研修センター指導部・大島出張所の研修などを積極的に利用して、資質・能力の向上を図った。年度当初の予定に加え、特別支援に関する校内研修を講師を招いて実施した。研修の機会を増やすことや研修に参加するための補教などが課題。 | 式小新中式中 |
| 内　容成　果課　題内　容成　果課　題 | 実態に応じた校内研修テーマを設定し、全教員に対して、研究授業を義務付、年間を通して計画的に研修会を行う。また、夏季休業中を利用しての、東京都研修センターでの課題別研修を受講させている。校内の研修会のみでなく、他校を交えた実践事例研修を計画的に実施できた。連携型一貫教育の教科部会の研修が増え、職員個々の持つ課題に対する意欲は高まってきている。研修の機会を増やすことや研修に参加するための予算措置などの対応が必要である。各学校で、実態に応じたテーマを設定した研修会を行うとともに、夏季休業中を利用しての、研修センターでの課題別研修を受講させている。また、全教員に対して、研究授業を義務付けている。研修の参加を通して、研修の成果を校内で発表させるなど、教員個々の持つ課題に対する意欲は高まってきている。研修の機会を増やすことや研修に参加するための予算措置などの対応が必要である。 |
| 項　目（７） | ＩＣＴの機器を活用した分かる授業を実現するため、教育用コンテンツを整備するとともに、教員のＩＣＴ活用指導力及び授業力の向上を図る。 | 達成度　 |
| 内　容成　果課　題 | 各学年の教室で生徒が、ネット環境を利用して学習が行える環境を整備した。また、数学、社会、「総合的な学習の時間」を中心に、ＩＣＴを利用した授業を推進した。授業で教室のモニターを、積極的に利用する教科が増えた。より効果的にＩＣＴ機器を活用していくこと。 | 式中新中　Ｂ式中 |
| 内　容成　果課　題 | 教員の授業研究において、ＩＣＴを活用した授業実践を行っている。各教員の、授業においてＩＣＴを活用した授業実施率は上昇している。さらに「分かる授業」のために、研修を重ねる必要がある。 |
| 内　容成　果課　題 | 昨年度の課題から、ＩＴＣを活用するための校内研修（具体的なコンテンツ等）を実施。全てＩＣＴに頼るのではなく、エッセンスとして気軽に活用できる雰囲気を持つことができた。研修会で得たことを活用してみることが必要。 |

|  |
| --- |
| 【基本方針４　社会教育の充実】 |
| 　村民が、自己の充実・啓発や生活の向上のため生涯を通じて学ぶことができるよう、学習の機会や場を提供するなど、社会教育の充実を図る。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目（１） | 情報化、国際化、高齢化、環境問題などの現代的な課題について、村民が関心を持ち認識を深めることができるよう、学習の機会や場を提供する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 茅葺民家で高校生のボランティアの協力のもと、新島の特色を謳った「新島の郷土かるた」大会を開催した。かるたの内容を覚えるだけでなく、郷土料理、餅つき、おもちゃづくりなどを体験しながら新島の産業、自然、歴史を学べ、郷土を知る機会になった。高校生のボランティアにより支えられている行事で、継続して実施すること。 | 博物館 　　B |
| 内　容成　果課　題 | 情報通信、環境問題、国際化等関連新刊図書の購入。関連情報誌は多く発行されており、最新情報の提供ができた。多種多様な図書が出版されており、すべての住民の要望に対応しきれない。 | 教育 |
| 内　容成　果課　題 | あらゆる現代的な課題について学習ができるように、小中学校すべての教室に情報通信ネットワークシステムを構築した。通信ネットワークやテレビを利用することにより、分からない内容や最新情報が瞬時に調べられるようになった。利用する側の技術が追いついていかない。 |
| 項　目（２） | 村民の生涯にわたる学習活動を総合的に支援できるよう、諸施設の整備、情報提供、相談機関の充実、指導者の養成、学習機会の拡充等の条件整備を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 図書室への図書管理システムの導入。自宅でネット検索により蔵書の確認ができるようになった。また、貸出し、返却に係る時間が短縮され、住民サービスの向上が図られた。毎年補充しているが、蔵書冊数が少ない。図書室のスペースが狭い。 | 　　Ａ |
| 内　容成　果課　題 | 博物館の教育普及活動として、小学3年生「子ども学芸員」による解説、6年生「地質見学会～羽伏浦と渡浮根の地層～噴火で生まれた新島について」を実施した。ふるさとの自然や歴史を学ぶことにより、ふるさとに対する愛着が湧いてくる。指導者及び継承者の減少。限られた時間での学習。 |
| 内　容成　果課　題 | 博物館季節企画展「新島はカンムリウミスズメのホットスポット！？～絶滅危惧種の海鳥からみる新島～」を開催。住民の声を聞き、住民参加型の企画展を開催した。指導者の確保。より多くの住民の声の収集。 |
| 内　容成　果課　題 | 大学又は専修学校へ進学するための奨学金の貸付。24年度貸付け実績は継続貸付34名、新規貸付19名。銀行口座の開設の関係で書類の整備が遅れ、４月からの支給ができない。返還金滞納者への対応。 |
| 項　目（３） | 身近な学校が地域における学習やスポーツ活動の場として活用されるよう、学校の諸施設を整備し、積極的に開放し、地域における生涯学習の拠点として開かれた学校づくりを推進する。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 体育館や特別教室、校庭などを住民に開放している。バレーボール、バスケットボール、ソフトバレーボール、ボクシング、剣道、バドミントン、フットサル、サッカー等が利用。各施設の使用状況：体育館は新島小学校227回、式根島小学校86回、新島中学校177回、式根島中学校167回、旧若郷小学校133回、校庭185回、音楽室74回。使用終了後のゴミ片付けや、清掃に関し一部配慮に欠ける団体がある。また、利用時間等重複することが多く全ての団体のニーズに対応しきれない。 | 　Ａ |
| 内　容成　果課　題 | 式根島小学校の電気陶芸窯を住民に開放し、陶芸体験を行わせている。地域住民を指導者に、学校の授業以外でも児童・生徒が陶芸の作品造りを体験できる。利用時間が長時間にわたるため、管理体制の確立。 |
| 内　容成　果課　題 | 学校の校庭の芝生化実施。学校の休業日等に一般村民が芝生の校庭で寛ぐ姿を見かけることが多くなった。芝生の管理及びペットのフン害。 |
| 項　目（４） | 学校・家庭・地域社会それぞれの教育機能の充実と相互の連携の強化を図る。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 授業参観、道徳授業地区公開講座など村民が参加しやすい、土曜日や日曜日に開催している。また、総合的な学習の時間など地域の方をゲストティーチャーとして協力をお願いしている。土曜日・日曜日に開催することで保護者・地域住民の出席率が高くなっている。また、ゲストティーチャーとして地域の方の協力を得ることができた。保護者や住民の「文化や芸術」に対する意識を高めるような取組が必要。 | 　Ｂ |
| 内　容成　果課　題 | 保育園・小学校・中学校・高校の児童・生徒の作品を地域住民に鑑賞していただく「地区作品展」の開催。新島地区1月25～28日、式根島地区2月2～4日地域住民に鑑賞していただき、多くの児童・生徒が褒めてもらうことにより、意欲が湧いてきた。来場者数約600名。体育館を借用するため、社会体育の活動場所を占有するため長期間の展示ができない。 |
| 内　容成　果課　題 | 学芸会や文化祭の開催。学芸会や文化祭に向けて練習を重ね、お互いに協力し合う連帯感の醸成に繋がった。また、多くの保護者や地域住民に観ていただき、努力した充実感を味わえた。指導者の育成。新学習指導要領により授業時数を増やすため、行事に対応した時間の確保。 |
| 項　目（５） | 関係機関・関係団体との連携のもとに、家庭教育に関する情報や多様な学習・交流の機会を提供するなど、家庭教育の支援に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 家庭教育講座「ネット・ケータイ安全講座」を２月25日、26日で実施。子どもたちのインターネットや携帯電話の無警戒な使用に付きまとう犯罪やトラブルの危険性について、保護者や地域住民に注意喚起できた。子どもを持つ親等多くの村民の参加を図る必要がある。 | 　Ｃ |
| 内　容成　果課　題 | 新島村文化協会主催による「新島村民文化祭」を開催し、書道、絵画、手芸、写真、俳句、シーボーンアート、折り紙、陶芸等の多くの作品が出展された。村民文化祭を通じ多くの住民に鑑賞してもらうことにより、さらに創作意欲が増してくる。村民文化祭を継続・発展させていくには、より多くの発想を取り入れて企画運営をする必要がある。 |

|  |
| --- |
| 【基本方針　５　文化・スポーツ・レクレーションの振興】 |
| 　村民が、生涯を通じて文化・スポーツ・レクレーション活動に親しむことができるよう、活動の機会や場を提供するなど支援を行う。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目（１） | 新島の自然と歴史によって培われてきた貴重な文化遺産を継承し、新しい文化を創造し発展させていくために、芸術鑑賞の機会と創造の場の提供に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課　題 | 「ふれあいコンサート」と題して、児童・生徒、保護者、地域住民を対象にした音楽芸術の鑑賞会を実施した。歌と劇による舞台公演で、2月16日、17日に開催。3人の劇団員による歌と体で表現する劇のみ舞台であるが、その情景が思い浮かぶほどとても表現力が豊かで、観客は生の演劇や音楽が持つ魅力を堪能することができた。延来客数：新島地区40名、式根島地区53名。各学校が授業参加ではないため、以前実施していた「スクールコンサート」に比較して、来場者数が少なくなった。 | 　Ｂ |
| 内　容成　果課　題 | 11月2日に都立新島高等学校を会場に開催された都民交響楽団主催による新島演奏会を後援。児童、生徒を対象とした昼の部と、一般村民を対象とした夜の部の2部制で開催され、それぞれの聴衆に応じた演目が演奏され、合計で約540名の児童・生徒、村民が来場した。普段島内では体験することができない総勢60名にもおよぶオーケストラによる生演奏に触れさせることで、音楽の持つ魅力を再発見する機会を創出した。都民交響楽団主催の島しょ地区巡回事業であるため、本村での開催は、4年に1度となり、継続性がない。また、開催時には楽団員が多数来島し、教育委員会職員のみでは、対応が難しい。 |
| 内　容成　果課　題 | 古文書を読む会を毎月第3日曜日に開催。古文書を読める受講者が出てきた。若い人たちの参加が得られない。 |
| 内　容成　果課　題 | 大踊研究会を毎月第４土曜日に開催。踊りと歌を練習している。踊りについては、公開している4種はほぼ習得できている。歌は、伝承者が既になく、記録テープの音声も不明瞭で、習得が困難である。 |
| 内　容成　果課　題 | 盆の供養踊りとして、江戸時代から歌い踊り継がれてきた大踊を8月14日若郷妙蓮寺、8月15日本村長栄寺で一般公開した。戦前から途切れていたが、昭和25年に復活され、再び継承が途絶えるが大踊保存会を組織し、今に伝えている。高校生が踊り手として参加している。継承者の育成。保存会の組織強化。お盆で最も忙しい時期のため協力者の確保が難しい。 |
| 内　容成　果課　題 | 5月13日地質の日にフィールドワーク「白い地層に乗った大石（羽伏浦海岸周辺）の見学会」を実施。多くの住民が、新しい地層の成り立ちや角の取れた大石について知ることができた。新島・式根島の地質についての研究成果の報告書の作成。 |
| 内　容成　果課　題 | 本土とは異なる独自の生態系は、生物間の関わりや進化を知る材料として優れていることに着目し、「研究の成果の地元への還元」をコンセプトに島嶼生態系研究会が講演、シンポジュウムを開催。小中学生から高齢者まで広い世代が来館され、賑わいを見せた。新島村の住民の皆さんからの要望を取り入れて企画展を実施しているが、十分な資料の確保が難しい。 |
| 内　容成　果課　題 | 企画展（カンムリウミスズメ）コンサート・同セミナーの開催。コンサートには幅広い年齢層の村民おおよそ100名が来場し、コンサート内で企画展紹介コーナーを併せて実施することで、企画展自体への関心も高めることができた。住民からの要望に即した企画展を実施するに当たり、そのための十分な資料の収集が困難である。 |
| 内　容成　果課　題 | 元法政大学文学部教授、段義一行氏を招いて、文化講演会「新島の海難・漂着」を開催した。新島村の古文書の解読に長年携わり、「新島村史資料編　海難・漂着」の監修も行っている段木一行氏自らが、島民の先祖である江戸時代の村人の生活・風俗について、古文書という歴史記録から実証的に解説を行い、自らのルーツに対する興味とリアリティを持って受講者に受け入れられた。博物館事業として実施する文化講演会としての講演内容の選択。 |
| 項　目（２） | 村民の健康づくり、生きがいづくりを進め、スポーツ・レクレーションの振興を図るため、楽しむスポーツから競技までを含めて、指導者の養成、活動組織の充実、施設の整備等に努める。 | 達成度 |
| 内　容成　果課題 | 羽黒スキー交流：新島・式根島の小学生30名が3月27日から31日までの間、鶴岡市羽黒町でスキーの講習、羽黒の小学生との交流会を実施。新島村の小学生が親元を離れて、見知らぬ土地を訪問し、他地域の小学生と交流することで、自立心と社会性を養うことできた。また、普段雪を目にすることのない新島、式根島の子どもたちにスキー体験をさせることで、新たな世界観を持たせることができた。春休み期間を利用した事業であり季節風や低気圧等天候の状況が不安定な時季に行われるため、当日まで実施の可否が確定できないうえ、帰島便の欠航も懸念されるので、こうした点をも考慮した実施計画が必要である。 | 　　　　Ａ |
| 内　容成　果課　題 | 小学校3年から6年児童対象の水泳教室を実施した。夏休み期間中（8月１日～７日）村内指導者による泳法指導。小学3年から6年33名参加。集中した指導により児童の泳力が向上した。村内指導者の確保及び水泳選手の招聘のための予算確保。 |
| 内　容成　果課　題 | ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙの普及推進を目指し、スポーツ推進委員の指導の下で練習会を毎週1回開催している。また、年1回村民大会も実施している。練習会には、毎回15名前後の住民が参加し、あらゆる年代で楽しめるスポーツとして定着している。ソフトバレーボール連盟立ち上げの機運醸成ができた。体育協会加盟のソフトバレーボール連盟の設立支援。 |
| 内　容成　果課　題 | ジュニアを中心に育成教室を開催した。ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ教室指導者講習会（講師：６名）（2月2、3日参加者：小・中・高・保護者・村内指導者25名）ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ教室（講師：元全日本監督1名、元オリンピック1名）（７月6日、参加者：小・中・高・村内指導者27名）（11月24日・25日、参加者：小・中・高・村内指導者22名）（1月21日・22日、参加者：小・中・高・村内指導者31名）（3月23日・24日、参加者：小・中・高・村内指導者34名）ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ強化練習（講師：大学生6名）　（9月8日・9日、参加者：小・中・高・村内指導者34名）ｻｯｶｰ教室（講師：FC東京選手2名、11月24・25日、参加者：小学生村内指導者31名）ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ教室（講師：実業団ﾊﾞｽｹｯﾄﾁｰﾑ6名、2月2・3日、　　　　　　　　　参加者：小学生・中学生・高校生・保護者・村内指導者25名）野球教室（講師：スポーツ指導業者専門指導員、3月3日参加者：中学生・村内指導者15名）野球大島強化合宿：9月23・24日　参加者：中学生・村内指導者12名少年野球教室（講師：村内有志、年間を通し毎週日曜日、参加者：小３～６年児童17名）少年野球大島遠征：12月8・9日　参加者：小３～6年児童・村内指導者17名）下田へ遠征しての柔道強化練習：6月30日　参加者：小・中学生・村内指導者18名子ども遊び体験教室：11月10日（講師：江戸川区青少年委員5名　参加者：幼児から児童50名）プロ及びセミプロ選手による指導によって技術の向上が図られるとともに、競技の楽しさも学ぶことができた。技術の向上のみならず、児童・生徒の健全育成にも貢献している。都体育協会の事業を利用しているため、長期的な計画を立てることが出来ない。 |
| 内　容成　果課　題 | 2013年に東京で開催される第68回国民体育大会において、新島村がビーチバレーボール成年女子競技の開催地となっているため、その準備を推進した。試合会場の建設等関連ハード面の整備を完了し、リハーサル大会を開催できた。審判員講習会を定期的に開催し、村内の大会運営協力者を育成した。各種イベント開催時に、国体開催に関するＰＲを、島内外へ発信し、大会の機運を醸成に努めた。リハーサル大会から得た反省点を踏まえての本大会運営計画の修正。村民に向けた更なる関心の誰もが初めて経験する大事業であるため、関係全部署に渡って経験不足による開催準備の進捗率の停滞が否めない。加えて事業開始当初からの担当者がたびたび異動により代わり、経験値の積み重ねが出来ず、苦慮している状況にある。 |
|  |  |  |

４．点検・評価に関する有識者からの意見について

　　　　新島村教育委員会の基本方針の点検・評価に関する意見

　　　　　　　　　　　　　　　　　市川　英俊（前新島小学校校長）

1. 評価について

一部、家庭教育における評価がＣ評価（達成していない）になっているが、その他は、ほとんどがＡ（達成している）、Ｂ（概ね達成している）評価となっている。この評価は各学校長の評価も加味し、教育委員会が行っており、その信憑性が高く、新島村における教育の成果は、かなり上がっていることを表していると受け止められる。このことは、教育委員会の指導のもと、各学校・園、地域、の教職員や指導者の努力が効を奏していること考えられる。

1. 新島村の教育の現状および課題

○学校教育

・教員

 「教育は人なり」と言われるように、学校教育は、子供を指導する教員の熱意と努力と子供を愛する深い人間性にかかっている。従ってまず、良い教員を確保すること、良い教員を育てることが極めて重要である。近年、教員の「公募制」が実施され、教員は、自分の勤務したい島を選べるようになった。また、受け入れる島では、その教員を面接できるようになった。このような公募制によって意欲のある教員が派遣されるようになり、島しょの教育の水準が上がりつつあることは喜ばしいことである。また、新採で派遣された教員を研修によって指導力を培うことも行われており、この研修の充実が大きな課題にもなっている。新島村の各学校は、それぞれ独自の校内研究を熱心に行い講師を招聘し研究授業や研究会を行っている。しかし、講師派遣に必要な十分な予算措置がなされていない現状がある。また、夏休みなどを利用して都教職員研修センターで実施される研修も旅費予算が確保されず教員の自費で研修に参加しているものも多く、課題である。

 　・新島村連携型一貫教育研究協議会

　　　新島村においては、教育委員会主導のもと保小中高一貫教育が行われている。この教育は、他に例がなく、新島村が東京都に誇れる教育である。連携型一貫教育のねらいは、保育園から高校までの１５年間を一貫して子供に教育を施してよりよい教育効果を期待するものである。区市においては特に高校や保育園も巻き込んでの教育研究は皆無といっても良い。新島村では、この教育研究が行われているため保育園から高校までの教員の交流が深まり子供の教育により効果をあげている。今年度は、「生きる力の育成」を目指しつつ「たくましい子供の育成」を目標に研究を進めてきて、生活指導では、保育園、小学校、中学校、高校の子供たちが一貫して「あいさつ運動」に取り組んだ。この活動が新島村の住民にも波及し、あいさつの通い合う島作りになればと思う。学習面では、保―小、小―中、中―高、小―高などの授業交流が盛んに行われ、教員同士互いに切磋琢磨する姿が見られた。このように、新島の教育において、この連携型一貫教育研究会の果たす役割は極めて重要である。しかし、この研究活動が保護者・地域住民に深く理解されていないのが現状である。また、研究活動予算も確保されておらず１名の講師も招聘できない状態である。今後の課題である。

　　・障害のある子供への対応

　　　障害のある園児・児童・生徒への対応については、教育委員会が「新島村特別支援教育連絡協議会」を立ち上げ、その対応について話し合いを進めてきている。各学校では、特別支援の校内委員会を組織し、その対策を図っている。現在新島小学校には、特別支援の固定学級、通級指導学級が設置され指導に当たっている。今後も障害のある子供への指導は重要な課題になってくる。小学校から中学校、中学校から高校、さらに高校卒業後の村での就業対策までも見通しを持って準備しておく必要がある。また、保護者や地域の人々の障害者への理解・認識を高めていくことも大きな課題である。

　　○社会教育

　　　社会教育を広い意味で「生涯教育」と捉えると、人間の発達課題に沿った教育を準備することが重要となる。

　　　・保育園就園前の教育

　　　　日本の教育において最も大きな課題の一つが就園・就学前教育の問題である。若者は、子供を育てる教育を与えられないまま結婚し、子供ができる。父母と同居していれば、子供の育て方を教わりつつ育児ができるが核家族・共働きでは、食べさせるのに精一杯である。その結果、人間の成長に最も重要な３歳までの教育（育児）が発達課題を達成できずに過ぎてしまう。その結果、人間としての重要な情緒面や社会性などが身につかず、保育園や小学校入学時に大きな混乱を引き起こす例が多く見られる。新島村においてもこの教育の機会を立ち上げることが大きな課題である。

　　　・学校卒業後の成人教育

　　　　新島村の大きな課題は高齢者の問題である。年齢が高齢になっても生きがいをもって健康で楽しく生活できる場の設定が大きな課題である。